

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1・2年前期	1・2	2	選択
担当教員			
友次 克子 ・ 臼田 泰如			
添付ファイル			

講義概要	本講義では、コミュニケーション学、社会言語学、認知言語学、異文化論を含む諸分野から、コミュニケーションについての理論を学び、自身のコミュニケーションを分析する機会にする。コミュニケーションは日常的に使われる語であるが、その定義は1つに定まてはいない。人と人が言葉や言葉以外のシンボルを介して意味や意図を共有する過程を、担当者の専門分野の視点から理論的に分析する。		
授業計画	1	序論 コミュニケーションとは何か 定義、特徴、要素 ・AL①②を行う	
	2	言語コミュニケーション1 言語とは何か 言語の特性、言語学のパラダイム ・AL①②を行う ・準備学習：資料の読解	
	3	言語コミュニケーション2 認知意味論：前置詞が表す空間図式1 ・AL①②③④を行う ・準備学習：資料の読解	
	4	言語コミュニケーション3 認知意味論：前置詞が表す空間図式2 ・AL①②③④を行う ・準備学習：資料の読解	
	5	言語コミュニケーション4 世界の言語事情 ・AL①②を行う ・準備学習：資料の読解	
	6	言語コミュニケーション5 言語に関する疑問 ・AL①②③④を行う ・準備学習：資料の調査	
	7	言語コミュニケーション6 言語に関する疑問：Student presentation ・AL①②③④を行う ・準備学習：資料の準備	
	8	コミュニケーションと会話 コミュニケーションと会話 ・AL①②を行う	
	9	会話の原理1 共通基盤と基盤化 参与の枠組み ・AL①②を行う ・準備学習：資料の読解	
	10	会話の原理2 会話の含意と協調性の原理 ・AL①②を行う	
	11	会話の原理3 対人関係とポライトネス ・AL①②を行う ・準備学習：資料の読解	
	12	会話の構造1 隣接ペア、拡張連鎖、挿入連鎖 修復、修復の開始・実行 ・AL①②を行う ・準備学習：資料の読解	
	13	会話の構造2 応答の選好・非選好 同調 (alignment) と共感 (affiliation) 会話の開始と終了、終了の開始 ・AL①②を行う ・準備学習：資料の読解	

	14 会話を観察するために データ，コーパス，検索と集計 ・AL①②を行う ・準備学習：資料の読解 15 まとめ レポートのフィードバック ・AL③を行う
授業形態	講義 アクティブラーニング：①14回, ②14回, ③5回, ④4回, ⑤0回, ⑥0回
達成目標	英語の文献を読みこなしたうえで、鋭い観察力と分析手法を身につける。
評価方法・フィードバック	輪読と議論を毎回行い、担当教員ごとに期末レポートを作成する。フィードバックは講義中に行う。
評価基準	秀 (90点以上) : student has superb understanding of contents and contributes to the lectures 優 (80-89点) : student has excellent understanding of contents 良 (70-79点) : student has rather good understanding of contents 可 (60-69点) : student has adequate understanding of contents
教科書・参考書	参考書： 末田清子・福田浩子『コミュニケーション学』松柏社 2011年 大堀壽夫編『認知コミュニケーション論』大修館書店 2004年
履修条件	なし
履修上の注意	Please be advised that you will have to read a lot of English for this course.
準備学習と課題の内容	Students in this course are expected to carefully read and think about the handouts provided and be prepared to discuss them.
ディプロマポリシーとの関連割合 (必須)	知識・理解:20%, 思考・判断:30%, 関心・意欲:10%, 態度:10%, 技能・表現:30%